

公共交通不便地域対策ニュース

No.3

第3回勉強会 ～区民×行政＝新たな公共交通～

世田谷区 道路・交通政策部 交通政策課

世田谷区では、鉄道駅からの距離が「500m」、バス停からの距離が「200m」以上のエリアを「公共交通不便地域」と定義しています。

この度、第3回目の勉強会を開催しましたので、その内容をご報告いたします。

日時：平成30年2月28日（水）

14時00分～16時00分

場所：砧まちづくりセンター内活動フロア

参加者：13名

(第1部) 運行計画(案)、事業スキーム(案)の提案について

(1) これまで実施してきたアンケート調査と、勉強会での主な意見は下記の通りです。

移動目的：通院、買物、娯楽

不便な地域：砧1丁目、砧2丁目、砧3丁目

目的地：祖師ヶ谷大蔵駅

買物（祖師ヶ谷大蔵駅周辺・世田谷通り周辺・環八周辺）

通院先（上記買物先と同じ）

その他（世田谷美術館・総合運動場）

時間帯と頻度：平日の日中に30分間隔で運行

運賃：200円程度（路線バスと同等）

(2) 運行計画を検討する際の注意点

注意点 既存路線バス等から需要を奪うような競合がないように調整

注意点 継続的運行のための採算性の確保（運賃収入などによる財源確保）

注意点 運行ルートや乗降場所についての周辺住民の合意

注意点 安全性の確保

注意点 継続性の確保

(3) 運行計画(案)の検討

上記(1)(2)を踏まえ、概略検討を行い、下記の条件を基本方針としました。

運行時間帯：日中を対象

基本ルート：公共交通不便地域と駅・病院等の主要施設を連絡

運行日：月～土曜日

車両台数：1台

運行間隔：1時間程度（1時間に1便のラウンドダイヤを基本）

（30分に1便回したい場合、片道4.5km以内にする必要がある）

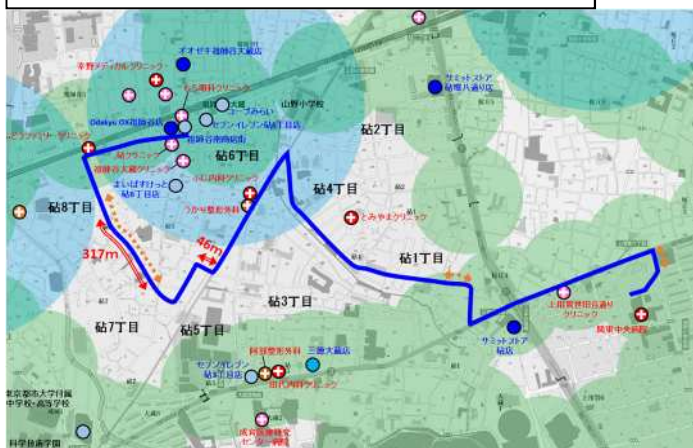
運賃：200円程度

使用車両：ワゴン車両

上記の基本方針に基づき、区から4案を提示しました。運行予測コストは4案とも概算で約900万円となり、ワゴンタイプの乗合いの場合は最大乗客人数が8人のため、運行経費に対して運賃収入が少なく収支は厳しいものになることが予測されます。

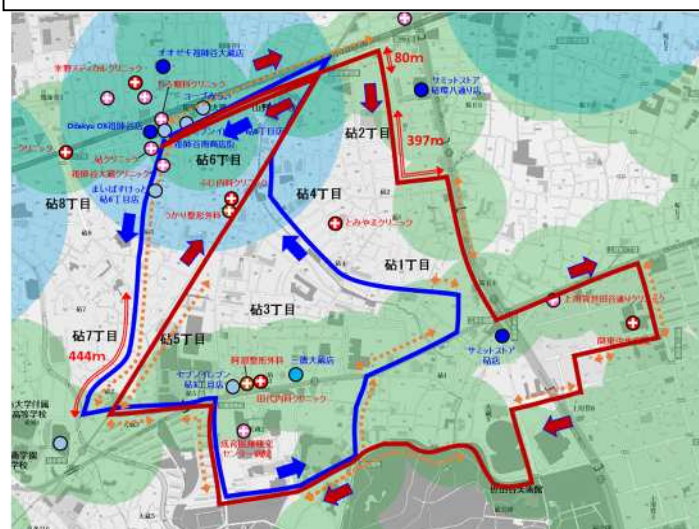
不便地域対策重視ルート

案 シャトル型ルート(往復 6.9km)



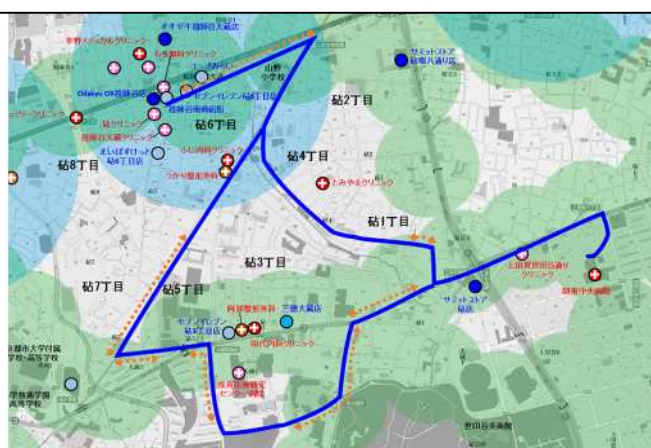
住民ニーズ重視隔日交互運行ルート

案 左回り(一周 4.8km)右回り(一周 7.3km)



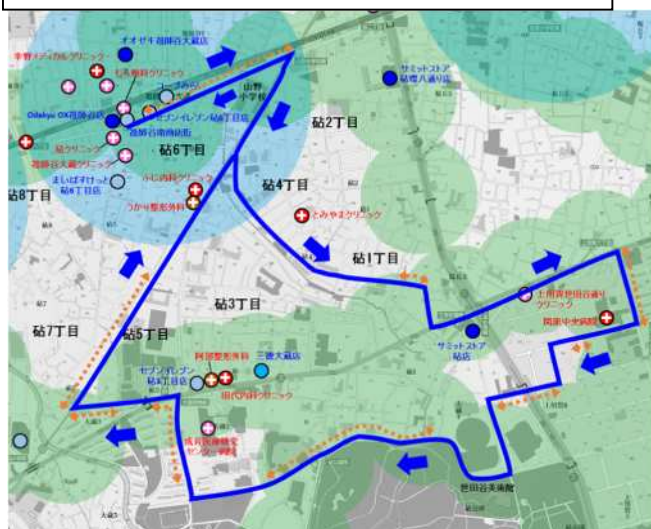
導入空間重視ルート

案 循環型交互運行ルート(一周 7.3km)



住民ニーズ重視大循環ルート

案 右回り循環ルート(一周 7.6km)



凡 例

- : バス停 200m
- : 鉄道駅 500m 圏域
- : 通院先(50人/日以上)
- : 通院先(25~50人/日)
- : 通院先(25人/日未満)
- : 買物先(1000人/日以上)
- : 買物先(500~1000人/日)
- : 買物先(500人/日未満)
- : 車両制限令抵触区間
- : 通学路

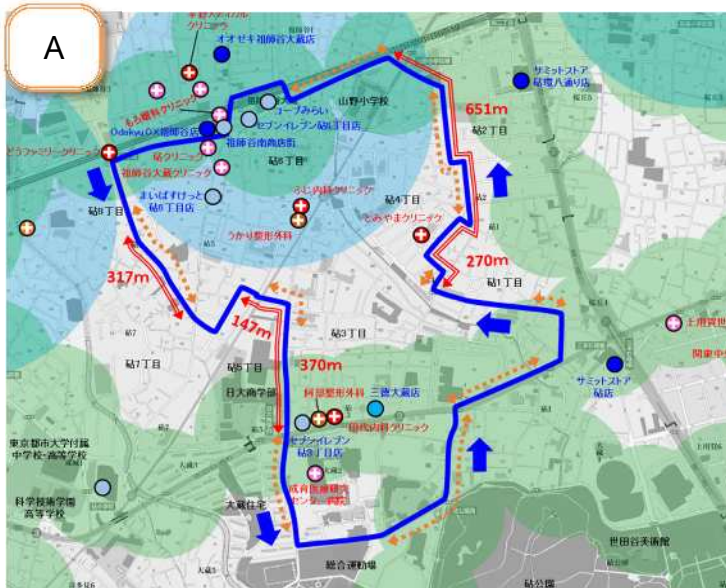
ルート	メリット	デメリット
案	<ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく利用しやすいため、利用者数確保が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス地域が狭い ・車両制限令抵触区間がある
案	<ul style="list-style-type: none"> ・両回りで利用しやすい ・車両制限令抵触区間がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・運行本数が少ない
案	<ul style="list-style-type: none"> ・不便地域を概ねカバーしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・片回り循環で利用しづらい ・隔日運行のため分かりにくい ・車両制限令抵触区間が長い
案	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス地域は広い ・車両制限令抵触区間がない 	<ul style="list-style-type: none"> ・大循環片回りで利用しづらい

区が作成した運行計画(案)の詳細については、区のホームページをご覧ください。

世田谷区ホームページ > 住まい・街づくり・交通 > 交通 > 交通に関する計画・方針等 > 公共交通不便地域対策について > 第3回公共交通不便地域対策勉強会(資料)

(第2部) 新たな公共交通の運行ルート、運行間隔について(グループワーク)

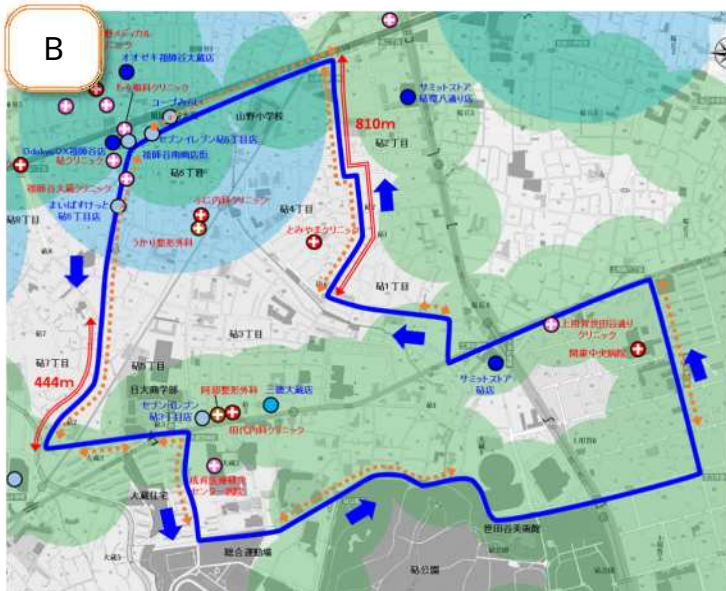
第1部で区が説明した注意点等を踏まえ、参加者の皆様に運行ルート(案)を作成していただきました。3グループに分かれて話し合っていたいただいた結果、それぞれ特徴のあるルートができました。



【Aグループ】

不便地域対策重視循環ルート

- ・ルート延長：5.1 km
- ・運行本数：14便(約40分に1本)
- ・起終点：祖師ヶ谷大蔵駅(北口)
- ・主要経由地
砦7丁目、成育医療センター、
総合運動場、砦1丁目、砦2丁目



【Bグループ】

住民ニーズ重視大循環ルート

- ・ルート延長：6.75 km
- ・運行本数：11便(約50分に1本)
- ・起終点：祖師ヶ谷大蔵駅(南口)
- ・主要経由地
商店街通り、成育医療センター
総合運動場、砦公園
世田谷美術館、関東中央病院
砦1丁目、砦2丁目



【Cグループ】

運行本数重視小循環ルート

- ・ルート延長：4.5 km
- ・運行本数：18便(約30分に1本)
- ・起終点：祖師ヶ谷大蔵駅(南口)
- ・主要経由地
商店街通り、成育医療センター
砦1丁目、砦2丁目

グループごとのポイント

運行本数を増やすために、3案中2案は関東中央病院へは乗り継ぎを選択しました。

- A**
- ・30分に1便に近づけるため、関東中央病院へのアクセスは、世田谷通りで乗換える。
 - ・運動場へのニーズは高いと考え接続させたが、接続させずに運行本数の増便もあり。

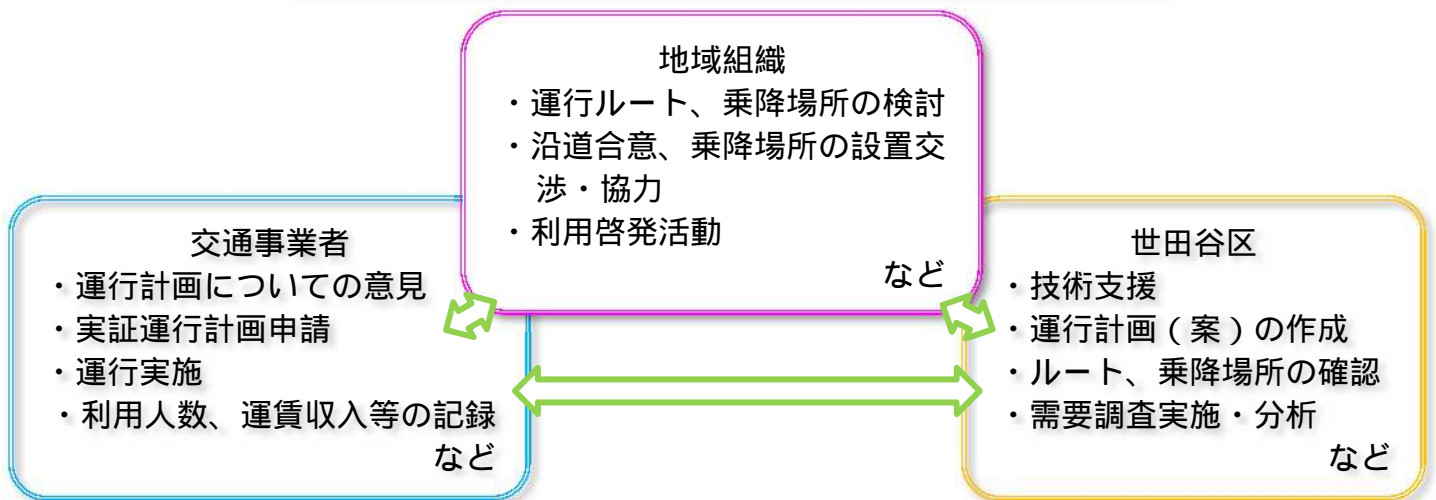
- B**
- ・高齢化が進んでいるため、関東中央病院へ直接行けるバスが必要。
 - ・既設のバスが通っている道路については停車せず、他路線との競合を避ける。

- C**
- ・30分に1便の運行を重視し、関東中央病院へのアクセスは、世田谷通りで乗換える。
 - ・運動場へは、健康のため世田谷通りから歩いてもらう。
 - ・子供連れは移動が大変なため、成育医療センターへは接続する。

今後の取組みについて

今後、以下の様な体制で、地域組織を中心に、三者が協力した実証運行の実施を想定しています。

モデル地区での実証運行時の体制イメージ（案）



(勉強会後のアンケート)

勉強会参加者の方にアンケートを記入いただきました。主な意見は以下のとおりです。

- ・運営主体・組織を検討することが一番大事と考える。
- ・地域住民にこの取組みを広く知らせることが必要だと感じた。

次回以降、より具体的な交通システム及び地元組織の設立に向けた検討を行っていく予定です。ぜひ皆さまも勉強会にご参加ください。

お問い合わせ先

世田谷区道路・交通政策部交通政策課

〒154-0017 世田谷区世田谷4-24-1(3階)

電話：03-5432-2544 ファクシミリ：03-5432-3067

世田谷区ホームページ>住まい・街づくり・交通>交通>交通に関する計画・方針等>公共交通不便地域対策について